

沖縄の安定供給の一翼を担う 島特有の環境を踏まえた運用

Jパワー 石川石炭火力発電所

Jパワーの石川石炭火力発電所（沖縄県うるま市）は1号機の運開から今年で40周年を迎えた。沖縄は電力供給において島特有の事情がある。系統容量が小さく、広域融通がない、発電設備の数が少なく各ユニット出力が系統容量の割に大きい、などだ。エリア全体の設備容量は約230万kW、最大需要は約160万kW。このうち同発電所は2基合わせて31.2万kWと高い割合を占める重要な電源に位置付けられている。

揚炭栈橋は沖合1kmの場所にある。海岸沿いの浅瀬に生息するサンゴを守るためだ。また、住宅地が近く大きな壁を設置するなど騒音対策を実施している。そうした周辺への配慮の下、長年にわたり稼働を維持している。